

図書館の仕事は、貸出、返却・・・そのほかは？
北杜市図書館司書の意外！？な仕事を紹介します！



金魚すくい!?

金田一春彦記念図書館には池があり、毎月（冬季を除く）お掃除をしています！

そのため池の中の金魚をすくうのですが・・・毎月の作業で、金魚すくいの腕前はプロ並み!? かもしれない・・・



新聞を読む!?

それって仕事・・・?



フムフム。ただ新聞を眺めているだけではないのです！図書館は地域の資料を集め、残していく役割があります。そこで北杜市図書館では、毎朝職員が新聞各紙に目を通し、北杜市関係の記事をチェックしているのです。



ショコニ!?

電球が切れたら自分たちで替えているのですが・・・女性職員がほとんどなので、脚立を持つ立ち姿は、まるでショム〇!? その他、体力を使う仕事が意外とたくさんあります！

ラジオDJ!?

エフエムハケ岳 (FM82.2Mhz) のコーナー「図書館だより・良い本との出会い」では図書館職員がおすすめの本を紹介しています。このようにノリノリで紹介・・・は緊張してなかなかできませんが、是非聞いてみてください♪

放送日時
月・金曜日
AM 10:30～
PM 0:15～(再放送)
PM 6:15～(再放送)



まるで記者!?

やまね便りの「あの人に会いたい」のコーナーでは、図書館職員が取材を行なっています。

インタビュー、写真撮影、編集作業など・・・気分は記者!



やまね便り

49号

ほんまとけ～

特集

こんなところに

北杜市が出てるじゃん!!

あの人に会いたい

小布施町立 はない ゆういちろう
まちとしよテラソ前館長 花井裕一郎さん



TOPIC

学校図書館との連携が充実!

北杜市図書館では、学校での読み聞かせやブックトークの実施、司書の情報共有のための連絡会を行うなど、学校図書館と連携し、市内の子どもたちの読書推進をしています。

昨年、北杜市図書館と市内全ての小中学校の図書館システムが連携され、学校図書館を含めた全ての図書館の資料の情報が共有できるようになりました。

この4月からは、全ての学校図書館から市内の公共図書館、他の学校図書館の資料を検索できるようになり、授業などで使う資料を簡単に市内中の図書館から取り寄せることができるようになります。

これからも学校をはじめ、関係機関と協力して子どもたちの読書活動を支援していきます。

やまね便り表紙イラスト大募集!!

北杜市図書館では、年に4回発行し市内全戸などに配布している図書館情報誌「やまね便り」の表紙を飾るイラストを随時募集しています。

市内各図書館で受け付けていますので、作品をお近くの図書館までお持ちください。皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしております。

- ・サイズ A4～A3 縦方向
- ・イラストまたは写真でも可
- ・イラストの場合、画材は問いません
- ・応募いただいた作品は返却いたしません
- ・採用の場合はご連絡いたします



詳しくはお近くの図書館までお問い合わせください。

編集後記 今回、インタビューに登場していただいた花井裕一郎さんを講師に迎え、3月1日に特別講演会を行い、多くの図書館利用者の方が参加されました。人と本を結び、人と人をつなぐ場としての図書館の持つ可能性に気付かせてもらえる素晴らしい講演に大感動。今後もこのような機会を設けていきたいと思ひます。(ま)

学校図書館との連携が充実!

ほん
本とけ～!



「こんなところに 北杜市が出てるじゃん!!」

～北杜市内の地名が登場する本、モデルになった本を集めてみました～

※今回紹介した本は市内図書館で所蔵しています。

事件は北杜市で起きている!



『万能鑑定士Qの事件簿』シリーズより
松岡圭祐／著 角川書店

ストーリーに登場している若き記者、小笠原悠斗は北杜市出身で長坂中学校から北杜高校、そして立教大学へと進み、角川書店に勤務しているという設定。しかもジュノンボーイ風のルックス。小笠原悠斗の出身地は『万能鑑定士Qの短編集集I』で明かされている。今夏、映画公開が決定!



『約束の地』
樋口明雄／著 光文社

野生動物と人間の関わりを描いた小説。舞台となるハケ岳市は、まさに北杜市のこと。架空の地名、実在の地名、見慣れた風景の描写、甲州弁、人物の名前など、地元民はピンとくるはず!野生動物が身近だからこそ、考えさせられることも多い一冊です。

昔を懐かしむ・・・



『清里〜燃えつきた原野〜』
奈良靖夫／著 あすなろ社

清里での開拓を夢見て、牧場を自らの手で切り開いていった奈良靖夫さんの回想録。物語の前半、孤軍奮闘しながらも牧場が少しずつ形を成していく過程に興奮し、また後半一転して農政や開発・効率化の名のもとに、牧場が斜陽を迎えていく姿に涙する。

その中であって自然のもとに生かされていると諦観しつつも可能な限り生ききろうとする著者の姿は圧巻です。清里の地から生まれた名著。



『ありし日のハケ岳南麓』
植松波雄／撮影 うえまつ写真館

かつて「ハケ岳ジャーナル」に掲載されたものをまとめ、長坂町を中心に北杜市の風景、人物、建物などの写真が文章とともに収められている。昭和30年代のものもあり、見る人によっては大変懐かしく心に響いてくるのではないのでしょうか?

こんな本知ってた?



『風野又三郎』“賢治草双”より
宮沢賢治／作 パロル舎

「風野又三郎」は、一般的に知られている「風の又三郎」より前に執筆され、そのもととなったと考えられているお話です。ここでは転校生ではなく風の精として子どもたちの前に現れた又三郎が、全国を吹き渡ってきた経験談を語ります。その中にハケ岳や富士川に言及する場面があるのです。ハケ岳の地を一度も訪れたことのない賢治がなぜ??

これには盛岡高等農林学校の同窓にして親友の荻崎出身・保坂嘉内の影響があると考えられています。保坂自身、高根町清里榎山地区にある風の三郎社の祠を訪れたりスケッチしていたことがあったそうで、そのエピソードを賢治がイメージとして膨らませていったとしたら・・・。思わずそんなことを考えてしまう素敵な作品です。



『パンプキン・ロード』
もりしま 森島いずみ／作 かりのふきこ 狩野富貴子／絵
学研教育出版

2011.3.11東日本大震災で被災。津波で唯一の家族であった母親を亡くした福島の子が、高根町清里に住んでいる祖父にひきとられ、徐々に心の傷が癒えていく物語です。

あの人に 会いたい

小布施町立
まちとしょテラソ前館長

花井裕一郎さん



1962年福岡県生まれ。演出家。各テレビ局の番組を演出。2000年から小布施を拠点とし、2007年12月～2012年11月小布施町立図書館館長。現在はNP0オブセリズムの最高責任者。

まちとしょテラソって?

長野県小布施町では町立図書館を建て替える際、町民参加型の建設を行いました。館長や設計者も公募です。私も公募で館長に選ばれました。開館前には地域の方々とのような図書館にしていけるかを考える機会を設けました。

あるときは図書館が利用者や地域住民の方に対して行うサービスについて定められている図書館法第3条を町民と一緒に勉強をしました。そこには図書館はあらゆる活動の機会を提供し、その提供を奨励することとあります。本を介すれば図書館はなんでもできるのだと、図書館に対する既成概念から解放されました。そこで“交流と創造を楽しむ、文化の拠点”という理念を掲げ、図書館を交流の場、ワクワクする情報を提供する場とするため、職員や地域の方々で多種多様なイベントを展開しています。

貸出数で図書館を評価する時代は終わりました。図書館は図書を借りる人だけが利用するものではありません。本を借りなくてもいいから図書館を利用してもらう人を増やしていくため、とにかく居心地のよい場所を作ることができました。専門用語を止め、禁止事項を減らし、図書館の中ではBGM

OK、飲食OK、おしゃべりOK、タイムシェアリングという方法(自然の流れの中で、お客様が時間を譲り合いながら過ごす)も採り入れ、図書館を楽しく利用してもらうようにしたところ、利用者は数倍に増加しました。

2011年には「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」を受賞。小布施のめざす図書館像に、お墨付きをもらったような心地がしました。その後も「死ぬまでに行ってみよう世界図書館15選」にも選ばれています。

「まちとしょテラソ」は既存の図書館のあり方に、一石を投じることができたと思っています。

図書館は本の館だと思っている人も多いかと思いますが、決してそうではありません。ネットもあるし、昼寝をしたっていいんです。図書館って自由です。これまで図書館を利用していない人も、気軽に利用してもらいたいと思います。

8図書館を大事に

北杜市では合併後も8図書館を維持していると聞きました。素晴らしいと思いますよ。市町村が合併してから、その数をキープしたというのは、あまりないことです。みんなだいたい統

合したあと、「余った施設は何にしようか」って言いますが、だったら図書館にしとけばいいじゃないって思います。人間が歩ける距離に図書館はあるべきです。そう考えると8館じゃ足りないはず。8館は絶対壊してはいけないし、8館で満足しちゃいけない。

それに、将来を担う子供達の事を考えても、図書館はなくてはならない。図書館は学校と同じ未来の地域のための投資ですから、お金がたかさんかかろうが、頑張っってやりくりすれば素敵な子どもたちが育ちます。そのためにはファンを作って、北杜市に住みたいって思わせなきゃいけない。

8図書館のカラーを全部変えても面白そうですね。所蔵本等をぐるぐる回し、展示会をやるとか。8館もあればいろいろなやり方ができます。それは僕からしてみればとても羨ましい事です。



『はなほん』
花井裕一郎／著
文庫

とじさせ! としよかんボランティア

～北杜市図書館を拠点に活動中の
図書館ボランティアを紹介～
第4回
すたまおはなしの会 アリス

すたま森の図書館立ち上げと同時に結成された読み聞かせのボランティアです。今年7月で14年目を迎えます。2012年には全国優良読書グループに選ばれ、今後もこれまで以上に熱の入ったおはなし会が期待されます。



アリスの定例おはなし会

毎月第1水曜日
第3土曜日
AM10:30～
すたま森の図書館



毎年1月恒例
“新春スペシャルおはなし劇場”

北杜市図書館ではボランティアを募集しています。興味のある方は、お近くの図書館までお問い合わせください。

ムリをせず、それぞれの個性を活かしてたのしく活動していく姿勢を続けており、子どもたちの笑顔のためにみんなで力を出し合っています。すばらしいパフォーマンスを見せてくれる方もいて、アリスのおはなし会はいつも活気があります。

子育て支援ルームや保育園などでも、おはなし会を行っています。ぜひ、おはなし会にお出かけください。

子ども向け

『空を飛んだポチ』
すざやま あさひ 杉山亮／作 おかべりか／絵 講談社



著者は小淵沢町在住。夏休みに自宅で行っている「ものがたりライブ」から生まれた、小淵沢が舞台のお話をまとめた本。強い風に飛ばされないようにするには?カブトムシが乗り物になる?こんなことが本当にあったら楽しいだろうなあ～と親子で楽しく読める一冊です。